

関数 I F

I Fは関数というより条件式の振り分けに使われるものです

もし条件に合う場合はAの式を条件に合わないときはBの式を実行する、というときに記述します

= I F (条件式, 条件が真の式, 条件が偽の式)

例えば1個250円のリンゴを10個以上購入すれば1個当たり10円値引きする場合の購入金額

式は $250 * A$ ですがAが10個以上の時は $240 * A$ です、これをI Fで書くと

もし $A > 10$ (Aが10より大きいとき)、条件に合うので $240 * A$ 、条件と違うので $250 * A$ 、という記述を

= I F ($A > 10$, $240 * A$, $250 * A$) とします

これだけの単純な計算だと電卓でもできますが、以下の様に

青木さんと、井上さん、上田さんが果物屋さんで買い物をしました
青木さんはリンゴ10個、なし16個、もも10個
井上さんはリンゴ18個、なし18個、もも18個
上田さんはリンゴ12個、なし12個、もも12個
送ってもらうため送料は700円かかります
リンゴは1個250円、なし1個220円、もも1個300円
それぞれ15個以上購入で20円引き、更に合計で1万以上になれば送料は無料です

これを計算してみてください

	水道使 用量		水道料 金	
8月	63			
7月	57			
6月	45			

	電気使 用量		電気料 金		前年同 月
8月	638				16803
7月	513				13443
6月	487				12591

使用水量(立方メートル)	水道料金	下水道使用料
0 から 20 まで	$(\text{水量} \times 40 + 1,300) \times 1.08$	$(\text{水量} \times 50 + 1,330) \times 1.08$
21 から 40 まで	$(\text{水量} \times 125 - 400) \times 1.08$	$(\text{水量} \times 140 - 470) \times 1.08$
41 から 60 まで	$(\text{水量} \times 185 - 2,800) \times 1.08$	$(\text{水量} \times 200 - 2,870) \times 1.08$
61 から 100 まで	$(\text{水量} \times 230 - 5,500) \times 1.08$	$(\text{水量} \times 210 - 3,470) \times 1.08$
101 から 200 まで	$(\text{水量} \times 275 - 10,000) \times 1.08$	$(\text{水量} \times 270 - 9,470) \times 1.08$
201 から 1,000 まで	$(\text{水量} \times 310 - 17,000) \times 1.08$	$(\text{水量} \times 335 - 22,470) \times 1.08$
1,001 から 2,000 まで	$(\text{水量} \times 325 - 32,000) \times 1.08$	$(\text{水量} \times 360 - 47,470) \times 1.08$

<2019年10月1日実施の単価>

(税込、円)

			単位	料金単価
最低料金 (最初の15kWhまで)			1契約	341.02
電力量 料金	15kWhをこえ 120kWhまで	第1段階	1kWh	20.32
	120kWhをこえ 300kWhまで	第2段階		25.80
	300kWh超過分	第3段階		29.29

利用車種		
車種	 小型車(4名)	 中型車(4名)

距離制運賃		
時間 / 乗車人数	小型車	中型車
初乗運賃 (2.0kmまで)	660円	660円
加算運賃 (2.0km以降)	296mごとに 80円	274mごとに 80円